

# 大手町・丸の内・有楽町地区 スマートシティ推進事業 (大手町・丸の内・有楽町地区 スマートシティ推進コンソーシアム)

## ■ 事業のセールスポイント:「データ利活用型エリアマネジメントモデル」

大丸有地区では**ビジョンオリエンテッド**によるスマートシティ化に取り組む。成熟社会における「**既存都市のアップデートとリ・デザイン**」を「**公民協調のPPP、エリアマネジメント**」によって推進する点が特徴である。都市OSやデータライブラリを実装した大丸有スマートシティでは、リアルタイムにデータを利活用した意思決定プロセスの変容が起こり、街の価値として「**創造性**」「**快適性**」「**効率性**」が飛躍的に高められる。

### 位置図

東京都千代田区の、東京駅と皇居に挟まれた大手町・丸の内・有楽町を合わせたエリア



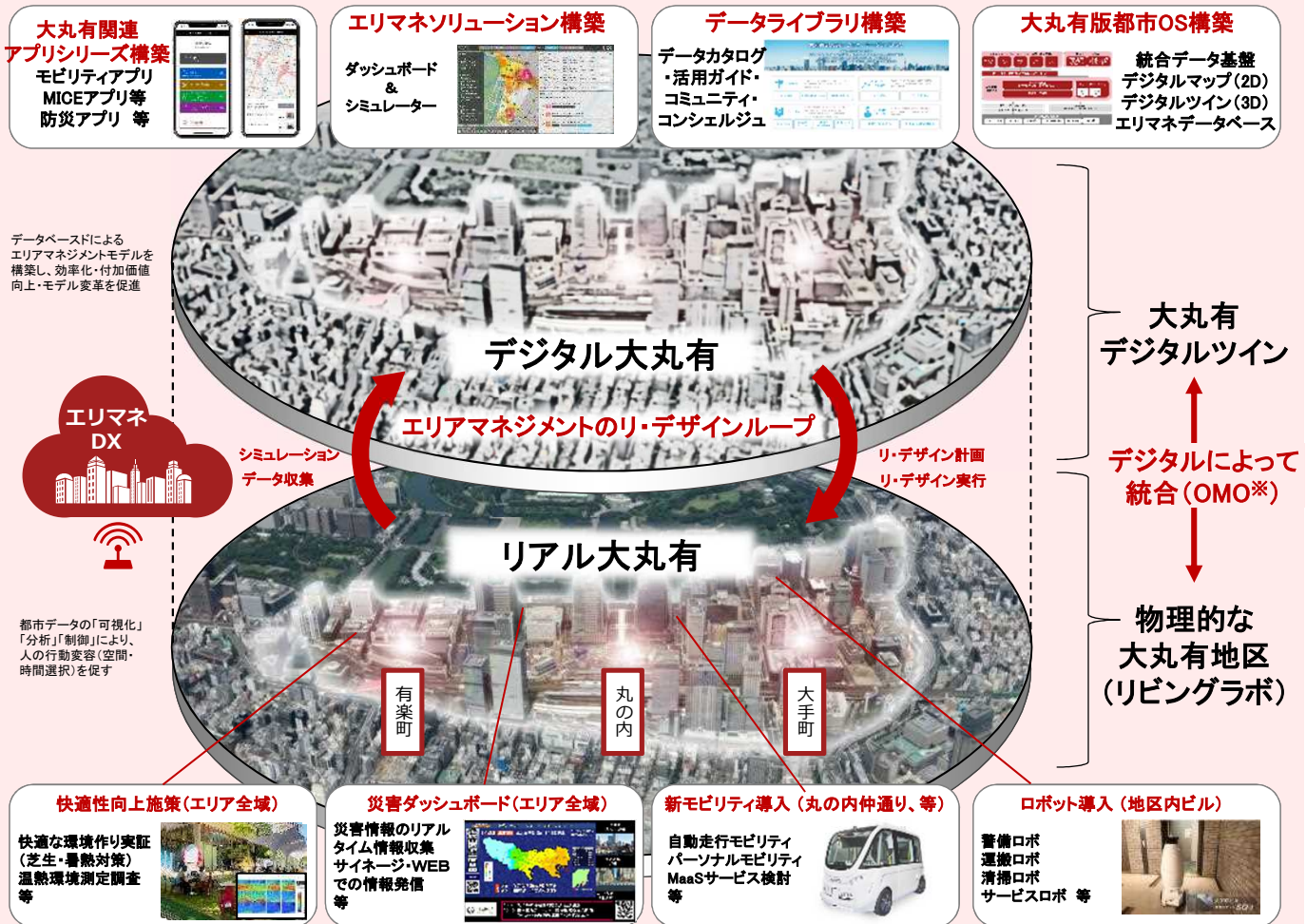
### 対象区域の概要

名称	大手町・丸の内・有楽町地区(大丸有地区)
区域面積	約 120 ha
就業人口	約 28 万人

### 対象区域のビジョン

1. 時代をリードする国際的なビジネスのまち
2. 人々が集まり賑わいと文化のあるまち
3. 情報交流・発信のまち
4. 風格と活力が調和するまち
5. 便利で快適に歩けるまち
6. 環境と共生する持続可能なまち
7. 安全・安心なまち
8. 地域、行政、来街者が協力して育てるまち
9. 新技術やデータを活用するスマートなまち

## ■ 本事業全体の概要: エリアマネジメントのデジタルトランスフォーメーション



※ Online Merges with Offline(オンラインとオフラインの融合)

# 大手町・丸の内・有楽町地区 スマートシティ推進事業 (大手町・丸の内・有楽町地区 スマートシティ推進コンソーシアム)

## ■ スマートシティの目標(KPIの設定)

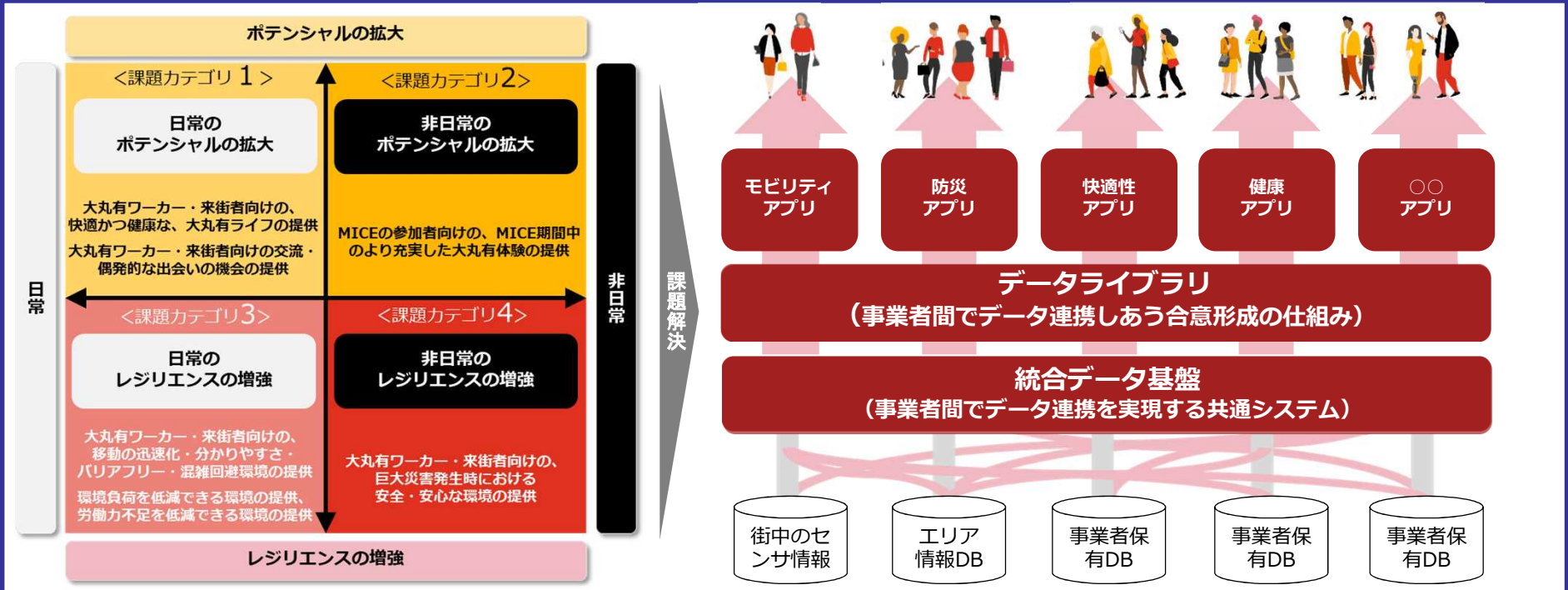
高められる地区の価値			KPI 達成年度	
<b>創造性</b> Creativity	イノベーション	交流	賑わい	2025
	就労者の創造性ある高い活動による経済効果 645億円/年間			
<b>快適性</b> Amenity	健康・健全	ユニバーサルデザイン	安心・安全	2025
	就労者の歩数増に伴う医療費抑制額 21億円/年間			
<b>効率性</b> Efficiency	ロボット・自動化	低炭素・省エネルギー	廃棄物削減・多段階活用(3R)	2025
	ロボット導入により生み出される別サービスの経済効果 18億円/年間			

(上記は例示今後詳細設定予定)

## ■ 運営体制



## ■ 都市の課題と解決方法





中速のエリア内外の移動を支えるパーソナルモビリティである電動キックボードの走行実証実験を実施。走行上の安全性の検証、都市のリ・デザインに関するポートや専用レーン設置の課題の整理、ビジネスモデル構築に寄与する移動需要の把握を行った。

## ■ 実証実験の内容

### ● 概要

ラスト-halfマイルの移動を支えるパーソナルモビリティの導入に向け、交通結節点を中心としたポート配置や中速モビリティレーンの設置を検討。



東京駅前を走行する様子

### ● 目的

- ▶ 走行場所拡大に向けた実証
- ▶ GPSによる移動データの取得
- ▶ サービス実装に向けたビジネスモデルの検討
- ▶ ポート設置に係る法制度上の課題整理



設置したポートの様子

## ■ 実証実験で得られた成果・知見

交通結節点（地上）のリ・デザイン像  
（大丸有スマートシティビジョンより抜粋）



- ・安全性について  
特例措置により走行路拡大は実現したが、事前講習の実施等により実証期間中に事故の発生がなく、安全面の懸念を解消
- ・リ・デザインについて  
交通結節点や適切な密度でのポート設置に関しては、道路管理者や沿道地権者との合意形成といった課題があり、配置場所の検討や法制度上の利用条件緩和措置が必要
- ・サービスについて  
シェアサイクル同等の利用需要が見込まれ、適切な料金設定次第でラストワンマイル程度の移動促進に有効

# これまで実施した実証実験の概要： 大手町・丸の内・有楽町地区 スマートシティ推進事業②

4

エリアの骨格軸となる通りにおいて歩行者と共存し徒歩移動をサポートする自動運転モビリティの公道走行実験を実施し、移動のニーズや社会的受容性、他のモビリティの連携イメージ等の検討を実施。

## ■ 実証実験の内容

### ● 概要



丸の内仲通りを走行する様子

徒歩移動をサポートするモビリティの導入に向け、歩車混在の道路空間形成、低速の自動運転モビリティの社会受容性や利用ニーズを検証

### ● 目的

- ▶ 歩行者専用通行エリアでの低速モビリティ走行
- ▶ モビリティ走行の社会受容性の検証
- ▶ エリア内移動手段としてのニーズの把握

## ■ 実証実験で得られた成果・知見

ウォーカブルな空間のリ・デザイン像  
(大丸有スマートシティビジョンより抜粋)



・安全性について  
時速6km以下での走行による安全性の立証

・社会受容性について  
ウォーカブルな空間実現に向けた社会受容性の証明(9割以上が肯定)

・移動のニーズについて  
ラストハーフマイルをつなぐモビリティとしてのニーズを確認

・サービスについて  
移動から目的地の行動まで一貫するサービス提供へのニーズの把握